

ないよう じてい
内容と時程

うけつけ じ
受付 16時～

ぜんたいせつめいかい じ ぶん
全体説明会 16時15分～17時25分

- かいちょう
・ 会長あいさつ
- かくがっこうだいひょうしゃしょうかい
・ 各学校代表者紹介
- やかんがっきゅう せつめい えどがわくりつこまつがわだいにちゅうがっこうやかんがっきゅう しょうかい
・ 夜間学級の説明と江戸川区立小松川第二中学校夜間学級の紹介
- やかんがっきゅうせいと はなし
・ 夜間学級生徒の話
- しつぎおうとう
・ 質疑応答

こべつせつめいかい こべつそうだん じ ぶん
個別説明会・個別相談 17時30分～18時50分

とない こう やかんがっきゅう もう せつめい そうだんたいおう
都内8校の夜間学級ごとにブースを設けてご説明・ご相談対応いたします。

じゅぎょうこうかい
授業公開

こうじ じ ぶん じ ぶん
1校時 17時40分～18時15分

きゅうしよく きゅうけい じ ぶん じ ぶん ※
給食・休憩 18時15分～18時45分

にこうじ じ ぶん じ ぶん
2校時 18時45分～19時20分

きゅうしよく けんかく しょうだいいくかんだん たいき こべつそうだん
※ 給食は見学できません。小体育館等での待機や個別相談になります。

16:00	16:15	17:25	17:40	18:15	18:45	19:20 終了
受付	全体説明会	授業公開 (各教室)		授業公開 (各教室)		
		1校時	2校時			
		個別説明会・個別相談				
		17:30	18:50			



か こ やかんがっきゅうせいと はなし ばっすい
過去の「夜間学級生徒の話」より (抜粋)



がっこう たの さい ぜんにちせいこうこう ねん だんし とうじ
「学校を楽しんでいる」19才 全日制高校1年 男子(当時)

ぼくが、夜間学級に入学するようになったのは、以前の中学校で不登校になったことからでした。(略)
夜間学級に入学した時にはすでに17歳になっており、最後に学校に行った時から4年ほどが経過して
いました。(略)

夜間学級に入る前の17歳の頃と、つい先日迎えた19歳の今では、こんなにも世界が変わるのかと自分
でも感動しています。

もし、あの時夜間学級での1年間を過ごしていなかったら、今の状況はなかったと思います。久しぶ
りに通う学校が1クラス10名という中で慣れていくことができました。もし、卒業資格だけ得て、高校を
受験しても、年下40名とのプレッシャーは大変なものだと思います。体もろくに外に出ていなかったの
でなまっていたし、似た境遇の子がいることで自信もつけられたのが大きい違いでした。

自分は周りの子より3年間長く生きていますがこの3年間、全く無駄ではなかったと思います。色々な
経験をから学んだこともあるし、こうして今では楽しいと思える暮らしが再びできていること、何より、昔
は行きたくないと思っていた学校に今では早く行きたいと思えること、こんなに幸せなことはないと思
います。

あか みらい さい ぜんにちせいこうこう ねん だんし とうじ
「明るい未来へ」18才 全日制高校2年 男子(当時)

初めて日本に来た時は、14才の時です。まったく日本語ができませんでした。それでも普通の中学校で
日本人と一緒に授業を受けていました。学校では、一週間に3回、放課後、日本語の先生に日本語を教え
てもらいました。授業の内容も先生の話も全然分かりませんでした。クラスの友達もよく話しかけてくれ
ましたが、話すのが苦手で会話をすることもできませんでした。そうやって1年間を過ごし、卒業が近づ
いて、進路を決める時がきました。

その時、三者面談をやりました。そして、先生に今の僕では高校に進学するのが難しいかもしれません
といわれました。日本語が読めないから試験の問題がわからなければ問題も解けないし、面接もできないで
しょうと言われました。でも高校に行きたいと先生に話したら、先生が、もう一年勉強すれば、高校に受か
るかもしれないと言ってくれました。しかし、もう一年勉強しても、本当に日本語が出来るかどうかもわ
からないので、不安でした。それを聞いた先生はもう一回調べてくださり、そして夜間学級を紹介してく
れました。(略)



さんかしゃ こえ
参加者の声 (アンケートより)

■ 今日(きょう)は子どもを連れて来ることができて良かったです。進路(しんろ)先(さき)の一つとして考えることができるのは光(ひかり)を見た
感(かん)です。本人(ほんにん)の気持ち(きもち)したいですが、少人数(せうにんずう)で先生(せんせい)との距離(きょり)が近(ちか)いことは、大切(たいせつ)だと感じ(かん)ました。

■ 日本語(にほんご)と国語(こくご)の授業(じゅぎょう)を中心(ちゆうしん)に拝見(はいけん)いたしました。私(わたし)自身(じしん)が国語科(こくご)の教員(きょういん)であるせい(せい)か、自分(じぶん)
だったらどう授業(じゅぎょう)するかという視点(しつてん)で見(み)ておりました。単(ただ)に学習(がくしゅう)内容を消化(しょうか)するだけでなく、生徒(せいと)の
既習(きしゅう)レベル(れべる)や生活環境(せいかくかんきょう)など、昼間(ひるま)の中学校(ちゅうがっこう)とはまた違(ちが)った配慮(はいり)が必要(ひつよう)であるに違(ちが)いないとい
う思(おも)いもしました。



■ 中学校(ちゅうがっこう)の教員(きょういん)でありながらしっかり理解(りかい)できていないことがいけ(い)ないと思(おも)い、参加(さんか)させて頂(いた)きました。
進路指導(しんろしどう)の一つとしてきちん(きちん)と知(し)っておき(お)きたいです。授業公開(じゅぎょうこうかい)していただけることも本当(ほんとう)にありがた(ありがた)いと
思(おも)いました。

■ 参加(さんか)させていただき(いた)き、有難(ありがた)うござ(ござ)います。お二人(ふたり)の卒業生(そつぎょうせい)の発表(はっぴょう)が、印象(いんしょう)に強(つよ)く残(のこ)ったよう(よう)です。学生(がくせい)
たちが「二人(ふたり)は失敗(しっぱい)をおそれ(おそれ)ない心(こころ)をもっていると思(おも)う。それは、学(まな)び直(なお)しがきちん(きちん)とでき(でき)たから。失敗(しっぱい)
しても、やり直(なお)せることをわか(わか)っている。失敗(しっぱい)しても、周囲(しゅうい)の目(め)が気(き)にならないんだ。」と話(わ)していました。
大(だい)学生(がくせい)も多(た)様(よう)化(か)しており、私(わたし)自身(じしん)も指(さし)導(どう)について色(いろ)々(ざ)悩(なや)むことが多(た)いです。学生(がくせい)とどう向(む)き合(あ)って
い(い)くか、今(いま)回の(かい)説明会(せつめいかい)に参加(さんか)して、考(かん)えるヒ(ひ)ント(んと)を得(え)ることができ(でき)ました。お礼(れい)申し上(あ)げます。